

第1回黒部市行政改革推進市民懇話会 意見、指摘事項とその対応

番号	意見区分	ページ行	意見の内容等	対応の有無	対応状況	備考(理由等)
	大綱	P1 28行	基本的な考え方 1. 行政改革の必要性 「基本的な考え方やスキーム」「基本的な考え方や方法」 平易な表現(カタカナ、英語を極力用いない)	有	御意見を参考に 「スキーム」「枠組み」に修正	「スキーム」は、体系立てられた枠組みとしての計画を指し、単純に計画を表すプランや、単純に枠組みを表すフレームと異なり、「組織立って」「継続的に」実行されることが期待される計画の呼び名として使われている。
	大綱	P2 11行	基本的な考え方 2. 大綱策定の趣旨 「合併による効果が表れてくるのは数年先であり、」表現が適切でない。 このまま数年経てば改善されるという訳ではない。	有	御意見を参考に 「合併による効果が表れてくるのは数年先であり、」 「将来の負担も考慮しながら健全財政を確保していくためには、」に修正	
	大綱	P3 7行	行政改革の基本方針 1. 市民との協働 「行政には、市民の要望をそのまま受け入れて予算が肥大化した」 「行政には、市民の要望をなるべく受け入れようと予算が肥大化した」	有	御意見を参考に 「行政は、増収局面において、市民の要望を積極的に受け入れた結果、現下の収入規模に対して予算が肥大化している部分」に修正	
	大綱	P3 7行	行政改革の基本方針 1. 市民との協働 「行政には、市民の要望をそのまま受け入れて予算が肥大化した」 他に変わる表現がないのか。(と同旨)	有	のとおり	
	大綱	P3 11行	行政改革の基本方針 1. 市民との協働 「市民と行政の関係を根本的に検討し直して、それぞれの役割を認識しながら市民参加を積極的に進める」「市民と行政の関係をより明確なものにし、それぞれの役割を認識しながら市民参画を積極的に進める」	有	御意見のとおり修正	
	大綱	P3 13行	行政改革の基本方針 1. 市民との協働 「「協働」の概念により、住民自治の仕組みを構築していかなければなりません。」「「協働」の概念により、住民自治に対する市民の意識の高揚を図るとともに、その具体的な仕組みを構築していかなければなりません。」	有	御意見のとおり修正	
	大綱	P3 15行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「当面、分庁舎方式など非効率な部分が顕在化し、」削除 分庁舎方式そのものが非効率との誤解を受ける表現で、分庁舎方式をとった根拠が無視されかねない。 分庁舎方式の良さを確認し、非効率な点は運営によって改善しなければならない。	有	御意見を参考に 「当面、分庁舎方式など非効率な部分が顕在化し、」「合併直後の行政運営は、物件費が増大するなど非効率な部分が存在し、」に修正	合併に伴う必要な経費(物件費)として、 ● コンピュータシステムの統一 ● 議場、庁舎等の改修 ● 公共施設のネットワークの整備 ● 各種事業計画の策定 などが挙げられる。
	大綱	P3 15行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「当面、分庁舎方式など非効率な部分が顕在化し、」削除 効率的な行財政運営を目指すあまり各地区における行政サービス拠点が少なくなるのが心配である。(と同旨)	有	のとおり	

	大綱	P3 16行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「分庁舎方式など非効率な部分」 「分庁舎方式など非効率な部分」 (と同旨)	有	のとおり	
	大綱	P3 16行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「合併による効率的な行政運営までには数年の期間を要する見込みです。」 表現が適切でない。 このまま数年経てば改善されるという訳ではない。(と同旨)	有	御意見を参考に 「合併による効率的な行政運営までには数年の期間を要する見込みです。」 「合併によるスケールメリットを活かした行政改革を手段として、一層の効率的な行政運営と財政基盤の強化が急務となっています。」に修正	
	大綱	P3 17行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「今後も国の三位一体改革に伴う厳しい財政状況」 「今後も国の財政構造改革に伴う厳しい財政状況」 (第1期)三位一体改革は平成18年度を目標としており、第2期については不透明である。	有	御意見のとおり修正	
	大綱	P3 19行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「このため、行政と民間との新たな役割分担の下、」 「このため、市民と行政との新たな役割分担の下、」 ここまでは「市民と行政」で通されているのに、ここだけ「行政と民間」になっている。	有	御意見のとおり修正	この大綱においては、「市民」とは、個人としての市民だけではなく、「市民、家族、町内会、自治振興会、ボランティア団体、NPO、企業」といった多様な主体を総称して指すものとします。
		P1 15行	-	-	基本的な考え方 1. 行政改革の必要性 「市民や市民が参加する団体、企業など多様な主体が提供する」 「市民(市民、家族、町内会、自治振興会、ボランティア団体、NPO、企業といった多様な主体)が提供する」	に伴う事務局訂正
	大綱	P3 20行	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「効率的な行政運営、市民満足度の向上を念頭に、」 「効率的な行政運営、(財政に応じた)住民自治の本質を明確にしたうえで市民満足度の向上を念頭に、」	有	御意見を参考に 「効率的な行政運営、住民自治の本質を明確にしたうえで市民満足度の向上を念頭に、」に修正	
	大綱	P3 24行	行政改革の基本方針 「3. サービスの向上」 「3. 市民の立場に立った行政サービスの提供」	有	御意見を参考に 「3. サービスの向上」 「市民本位のサービスの提供」に修正	
	大綱	P3 31行	行政改革の基本方針 3. サービスの向上 「市職員一人ひとりが資質の向上と能力の開発、」 「市職員一人ひとりが公僕としての資質の向上と能力の開発、」 (と同旨)	有	御意見を参考に 「市職員一人ひとりが」 「市職員一人ひとりが全体の奉仕者としての」に修正	
	大綱	P4 3行	行政改革の実施方針 1. 市民と共に進める地域経営 「(1) 市民参画による市政の推進」 「(2) 市民活動の支援による協働の推進」 「(3) NPO・ボランティア団体の育成」 の3つのテーマを整理すべき。 テーマが重複していて、項目立てするレベルとしては、他と比較してバランスがとれていない。	有	御意見を参考に 「(1)市民との協働の推進」 「(2)NPO・ボランティア活動の推進」 に変更	

大綱	P4 5行	行政改革の実施方針 1. 市民と共に進める地域経営 「(3)NPO・ボランティア団体の育成」 「(3)NPO・ボランティア団体の育成と支援」	有	のとおり	
参考	P1	基本的な考え方 1. 行政改革の必要性 新市の立場から見た必要性(市債状況、合併効果の発揮等)もある程度記述されたほうがわかりやすい。	有	御意見を 行政改革の実施方針 3.スリムで効率的な行政体制の整備 6.健全な財政運営の確保 に反映	
参考	P3	行政改革の基本方針 1. 市民との協働 「市民の多岐にわたる財政需要に対応するためには、限られた財源の中、「最小の経費で最大の効果を上げる」を基本に行財政改革を推進し、市民生活の安定と福祉の増進に努める。」 追加	有	御意見を 行政改革の実施方針 5.経営的視点に立った事業運営 (1)行政評価システムによる事務事業の整理合理化 に反映	
参考	P3	行政改革の基本方針 2. 財政構造の健全化 「歳出については、徹底した見直しを行い、その節減、合理化に努めるとともに、聖域を設けることなく実施する。」 追加	有	御意見を 行政改革の実施方針 6.健全な財政運営の確保 (2)財政基盤の強化 に反映	
参考	P3	行政改革の基本方針 3. サービスの向上 「職員は市民全体の奉仕者であり、黒部市の一員であることの自覚を高め、自己研鑽に努めるとともに、意識改革を旨として適切な行政サービスを提供することによって社会的評価を高めるよう努力するものとする。」 追加	有	御意見を 行政改革の実施方針 7.職員の意識改革と時代に対応した行政サービスの提供 (1)職員の意識改革と人材育成の推進 に反映	
自由		まず、取り上げて欲しいことは財政面です。その改善については、できるところから民営化をするなど改革を進め、税収に見合った運営を進めていくことが重要だと考えます。 また、改革にあたっては、市民の理解や積極的参加を得る努力が大切と考えます。そのためには、行政側が市民の立場に立ち、改革の推進をすることが重要となるのではないのでしょうか。 そのためにも、行政書類等は、日常的な言葉を用い、平易な文章表現を心掛けて欲しいと考えます。			
自由		先の黒部市議会選挙において、若干28歳の新人が議席を得ました。「自分たちのまち」のために動く若者の存在が、また、そういった若者を守り育てようという年長者の存在が確認できました。 行政改革に求められる「市民の自覚と熱意」が芽吹いています。行政改革は、この点、この芽をつぶさないよう、若者(中学生や高校生も視野に入れて)の期待を裏切らないよう、十分に市民に開かれた形で進められて欲しいと切に願います。 しかしながら、市民の協働を強く求めながらも、その文体は市民にとって取り付き難さがかもし出しています。大綱は、特に前文だけでも中高生にも理解できる文体であることが望ましいのではないのでしょうか。 ● 全体的に短くする ● 平易な表現にする ● カタカナ、英語を極力用いない	有	カタカナ、英語は、固有名詞、一般的なもの以外は、使わないようにし、必要がある場合は、注釈を加える。 【修正箇所】 ・ P1、10行「喫緊」 「緊急」 ・ P1、12行「行政が何をなすべきか一辺倒でなく市民が地域にどう貢献できるのか、市民が行政とどのように協働していけるのか」「市民が行政とどのように協働していけるのか」	行政の専門用語に頼らざるを得ない部分、文章表現を平易にすると文章全体が長くなるなど、バランスが大変難しいのも事実です。 できるだけ、わかりやすい表現に努めておりますが、さらに必要な部分があればご指摘願います。
自由		● 一文が長く、市民が理解し難いのではないか ● 文章は複雑にしないで欲しい ● 長過ぎる文章があり、主旨がぼやけるきらいがある。			